

いたちかわらばん

通刊61号 颯川・独川 / 川原版・瓦版 '13春号



【版画 宗森英夫】

【桂橋上流】

上郷市民の森の桜と御神木

上郷市民の森の頂上には南北に100m、東西の20～50m幅の平坦地があります。中央部の清兵衛広場と散策道沿いには直径50cm位の古木となったソメイヨシノ20数本が植えられています。

これらのソメイヨシノは高圧線の直下に植えられているために現在、悲運にあっています。

10年ほど前まではきれいな花を咲かせていたのですが、樹が大きくなるに従い樹冠の枝を切られ、最近は隔年毎に枝を切られていたのですが、今年はどうとう根本から伐採されることになりました。

森には横須賀の火力発電所から27万ボルトの高圧送電線が東京方面に向けて通っているのです。

東電の保守係の人の話によりますと、送電線から樹冠までは7mの空間が必要なのですが、ここでは5m余りしかなく、危険限界だとのこと。東日本大震災発生以前は休止状態であった横須賀火力発電所が福島第一原発の停止に伴い再稼働することになったためです。ここ2ヶ月間連日チェンソーによる伐採の音が聞こえています。

森の東側散策道の外側には周辺の森でよく見られるオオシマザクラの古木が数本あります。あまりにも大きくて、下から見えるのは巨木の幹の下方部分のみ、花は周囲の樹木の上方に開花しているため森の中から花を愛でる事は出来ませんが、遠くから白く山を覆っているのを望むことができます。その中で最大の桜は幹の周囲が3.5mもあります。この大木を、私たち上郷森の会は森の御神木と崇めていて、毎年末、最後の活動日には散策道を清掃してから、桜に御神酒をあげ、活動の無事を感謝する納めの神事を執り行っています。(谷 溪)



(2012年12月16日 御神木の前で)



「いたち川散策マップ」2013 改訂版が遂に完成!

2007年に第3版が発行されてから約5年が経過し、当時真新しかった「いたち川散策マップ」もだんだんと情報が古くなってきていました。そこで2012年から、栄区役所といたち川OTASUKE隊が、いたち川周辺の環境を再度リサーチし、この度、第4版を発行するに至りました。

第4版では、従来のマップの良いところはそのままに、新しい情報や写真を加えたり、花や鳥のカレンダーを見やすくしたりして、より快適にいたち川の散策を楽しんでいただける内容に仕上がっています。

いたち川の自然を満喫できる散策モデルコースを4コース掲載していますので、「いたち川散策マップ」と一緒に、暖かくなってきたこの季節にいたち川散策へ出かけてみてはいかがでしょうか。

「いたち川散策マップ」は、次の栄区内の書店または地区センター等で販売中です。(100円/冊)

- ・エルム・オリオン書房
- ・カドタヤ小島書店
- ・上郷地区センター
- ・豊田地区センター
- ・本郷地区センター
- ・市庁舎1階刊行物サービスコーナー

発行: 独川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)
 OTASUKETA事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
 TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
 栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅谷 1-6-1
 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
 (お便り・お問い合わせはこちらまで)

発行年月 2013年3月
通刊61号

『莊川桜』よ 見守っておくれ

『莊川桜』をいたち川のアメニティに移植してから、十年目になります。

当時四年生だった子ども達も、今では大学一年生となり、それぞれの人生の目標に向かって進んでいます。私はといえば、昨年の三月で小学校を退職し、四月からは東京海洋大学大学院、海洋科学技術研究科で学ぶ傍ら、小学校の初任教師の指導者として働いております。

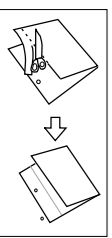
昨年の四月、入学したての学生食堂で、私は「坂田先生でしょうか？」と声をかけられました。振り向くと、そこには、あの『莊川桜』の移植をした時のリーダーでもあったSさんが、すらりと大きく成長した姿で、照れながら、私を眺めていました。

なんと、彼女も、東京海洋大学の海洋科学部の新一年生として、入学していたのです。今から十年前、私達は同じ教室で、命の大切さを学び、山や川や海の大切さを共に学んだ仲間でもありました。私達は、近くの海の公園の再生のためにアマモを学校で育て、地域の人々とともに海へ移植してきました。そのお手本となったのは、いたち川の自然再生のために活動される皆様方の活動そのものでした。「アマモを植えて魚たちのゆりかごをつくろう」という子ども達の願いは成就し、今、海の公園は、様々な生きもの達が生命を宿しています。いたち川にホタルが蘇ったように。

「いたち川のほとりに大きく生長した『莊川桜』よ、これからも私たちの成長をじっくりと見守っておくれ。」

(坂田邦江)

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



サクラの利用法あれこれ



桜にはいろいろな品種があり、日本では主に花を觀賞するため、西欧では実を中心に品種改良がおこなわれてその種類は数多く、600種以上が確認されているそうです。

果実はそのまま生で食べたり、ジャム、シロップに加工し、花や葉も塩漬けにして桜湯や桜餅に用いています。栄区でも良く見られるオオシマザクラは別名タキギザクラともいわれて燃料用に植樹されたものが多いです。

昭和20年代までは、このあたりでも炭焼きを生業とする家がありました。そのために根から1メートルくらいのところで伐って、上を燃料として使い、残った部分から出た数本の新芽を大きく育てて効率よく燃料を作っていました。根の近くから太い幹が何本も立っている大木が今も見られるのは燃料として育てた名残です。

サクラは焚いた時の香りが良いため燻製のスモークチップとしても使われています。樹皮は漢方薬としても使われて役立っています。他にも思いがけない使われ方があるかもしれません。

(うぐいす)

思い出ザクラはフジザクラ



国民学校1年生で入学した時、校庭に咲いていた大きな桜/本社勤務の頃、花見はいつも上野公園の桜/汐見台時代は根岸公園の桜/横浜分室勤務では浅間下神社の桜/転勤先の富山では城址公園の桜/単身赴任の北海道では江差の桜・・・様々なシチュエーションで色々な桜に出会った。さて、自分にとっての思い出ザクラは何だろう？。

思いを巡らす内に浮かんできたのが山登りの頃に出合った可憐なサクラだ。その名を「フジザクラ」という。ほぼ日帰りで行ける富士周りの山にはよく出掛けた。登った山を数えてみたら21座あった。

中でも富士五湖周辺の山は湖水との組合せもよいので好きだ。黒岳を主峰とする御坂山系の尾根を歩くとこのサクラに出会える。

或る年の5月2日付山日記に“尾根道ではフジザクラのオンパレードだ”と書かれていた。

里桜の染井吉野のような豪華絢爛さはなく細やかな小さな花だ。けれども、園芸種にはない野生種としての凛とした美しさがある。

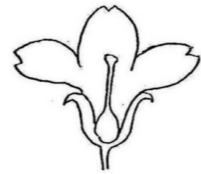
疲れた足で辿り着いた尾根で可愛い小さな花を見ると疲れなど一気に吹っ飛ぶ。「この尾根で見に来る人を待っててくれたんだねえー」と囁けば、直ぐ近くに見える富士山が「おお、そうなんじゃー。可愛いじゃろう！」と頷いているように思えた。

さて、フジザクラは「富士」と「桜」を合体した造語のように見えるが、これはれっきとした6つの野生種サクラ「マメザクラ群」に属するものである。「マメザクラ」は、富士箱根・伊豆国立公園一帯の山地、丘陵地に多く、産地にちなんで「フジザクラ」とか「ハコネザクラ」と呼ばれることがある。木花開耶姫(コノハナサクヤヒメ)を化身とするサクラは場所から考えてこの種類だろうと想像されている。

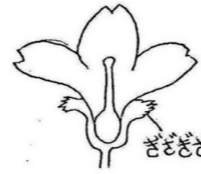
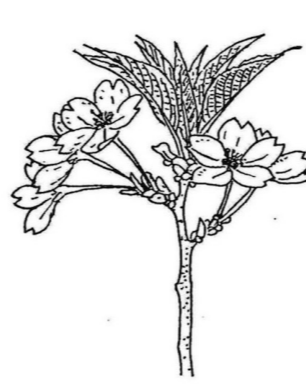
一部引用：世界の植物(朝日百科)「種子植物」

(ピンテール)

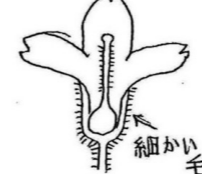
ヤマザクラ



オオシマザクラ



ソメイヨシノ



栄区に多いサクラの仲間の見分け方

サクラの名前	花の色	葉が出る時期	若葉の色	がくの様子
ヤマザクラ	うす紅色～白	花と同じ時期	赤色っぽい	毛はない
オオシマザクラ	白	花と同じ時期	赤色っぽい	毛はない 縁にギザギザがある
ソメイヨシノ	うす紅色	花が咲いた後	赤色っぽい	細かい毛がある

いたち川と長倉山のお花見さくら



いたち川から横浜自然観察の森へ桜ハイキングのご案内をします。長倉町バス停を降りるといたち川沿いのソメイヨシノが目に入ります。44年前に長倉山の麓に住宅地ができた頃に植えられた桜です。環状4号線を通るとき車からも良く見えます。

長倉町小川アメニティに入ってすぐのあずまやにはオオシマザクラがありますが、こちらは少し遅れて咲きます。手押しポンプのある井戸をすぎて少し先には淡いピンクのシダレザクラがあります。ユキヤナギやレンギョウと一緒に楽しめるスポットです。さらに上流に進むと石組みの小さな滝や石橋や池へとつづき風情があります。

まもなく横浜自然観察の森です。ヤマザクラやオオシマザクラが多く見られ木々の新芽とあいまって、この季節は山全体がぼうっと明るくなります。自然観察センターでは、森の生き物や環境についての展示内容が充実しているほか、図鑑や絵本がたくさん備えてあり、森の管理を委託されている日本野鳥の会のレンジャーの方に親切に教えてもらえますので楽しく学習できます。

また、横浜市民ふれあいの里「上郷・森の家」がすぐ近くにあり、ここの窓から眺める景色は素晴らしく、大木のオオシマザクラがライトアップされる頃は格別です。近くにはシドモアザクラもあります。横浜の桜物語としてエリザ・シドモアさんのことを子どもたちにお話

(うめおきな)

サクラ樹木



“桜前線”の言葉があるように日本全国の林には桜があり、綺麗な花は日本の象徴でもあります。桜は觀賞するだけでなく昔の人々の生活に必要な樹木であった様です。ヤマザクラ、オオヤマザクラは硬い均一で、光沢のある木材として家具や床柱や敷居などの建築物として利用され、樹皮は家具の表面や刀の鞘、弓の糸止め、茶筒などの張り皮として、強さと美しさから多く利用されてきました。民間薬としては、去痰剤(痰を取り去る薬)として、塩漬けにしたオオシマザクラの葉は桜餅に、八重桜の花は桜湯で飲み、木部は良質な薪炭として、それぞれに利用されるなど、昔から人々の生活に必要な樹木であったことがわかります。

桜の繁殖の場合、人工的に作られた園芸品種や八重桜は発芽することがないので接木か挿木で増やします。接木の台木はアオハダ(モチノキ科)やエドヒガン系の実生苗が多く利用されます。実生で発芽する桜は、エドヒガン、オオシマザクラ、ヒガンザクラですが発芽率は大変低いので新たな品種を開発することは難しいようです。横浜市内在住の人が新たに作りだした新種の桜は昭和60年に登録されました。それは「横浜緋桜」と言う名で、ヤマザクラ系の兼六園熊谷(ケンロクエンクマガヤ)と寒緋桜(カンヒザクラ)との交配種で濃いピンク色の一重咲きの桜です。区役所裏の小さい橋下流に、22年前に植樹した「横浜緋桜」がありますのでいたち川沿いのお花見にお出掛けの折には、一段と雅やかな桜を鑑賞してみてください。

水・人・子(ミジンコ)

桜の花見



昔は、花見というと梅だったそうです。今は、花見は桜です。

桜は満開の時期が短く、それがまた魅力的なのでしょうか。桜が咲くと、やはり花見に出掛けたくになります。

この辺では、本郷台駅近くのリリースと市営住宅の間が何故か一番に咲きます。それからいたち川に架かる城山橋の両脇の川沿いにも見事に咲き乱れます。

また、荒井沢市民の森の桜も見事です。冬は枯れ木のようにですが、花が咲くと桜の木だと気付きます。

荒井沢市民の森、極楽広場は桜の木に囲まれています。

田んぼの方に歩いていくと両脇も桜に囲まれています。いたち川沿いに咲いている桜の種類はソメイヨシノで、きれいなピンク色でとても艶やかです。ところが、荒井沢の桜は白っぽい色と青味がかかった花の色です。オオシマザクラと山桜だそうです。ソメイヨシノは觀賞用に植えられ、オオシマザクラや山桜は戦前に焚き木や炭焼きのために植えられたそうです。

私は OTASUKE 隊に入るまで、桜の種類が100種類もあり、原種は6種類で、そこから分かれたものだという事も知りませんでした。

「皆さん、物知りだなあ」といつも感心しながら編集会議に出席しております。そして、今年ちょっと桜のことを知ったうえで花見に行こうと思っています。

(和子)